

映像をめぐる冒険 vol.5



左図版：ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ《成田フィールドトリップ》2010年／作家蔵
右図版：金坂健二《無題》1960-69年／東京都写真美術館 蔵

東京都写真美術館は、平成20年度より「映像をめぐる冒険」シリーズと題して、映像部門の5つの基本コンセプト「イマジネーションの表現」「アニメーション」「立体視」「拡大と縮小」「記録としての映像」の中から毎年1つを取り上げ、展覧会を開催してきました。5回目となる今年は、「記録としての映像」をテーマに、当館が収蔵するコレクション作品とともに、映像というメディアの歴史を遡りながら、その今日的な役割を考察します。

映像史において、記録映画とも言われるドキュメンタリーは、映画とともに始まったと言っても過言ではありません。まさに映画の父と呼ばれる、リュミエール兄弟の世界初の実写映画《工場の出口》1895年公開）は、タイトルどおり工場の出口から出てくる労働者たちの様子を撮影した記録映画でした。それから100年以上を経た今日、ドキュメンタリーは、一つのジャンルとして定着し、今や映画に限らず、テレビやインターネット上の動画配信システム、ソーシャルメディアを通じて、ドキュメンタリー映像をみること、その上、自分自身で発信することが身近な時代になりました。しかしながら、映像の誕生から一世紀余り、数多の体験をしてきた私たちを取り囲む日常は、日々刻々と変化し、映像が担う役割も複雑化してきています。

それでは、映像は何を記録することができるのでしょうか、そして何を伝えることができるのでしょうか、もしくはそもそも映像は何かを記録することができるのでしょうか。今回の展覧会では、そうした問いを出発点に、過去から現在、未来にいたる記録映像の変遷と可能性を、映像と社会を結ぶいくつかの事例から検証します。

展覧会名：「映像をめぐる冒険 vol.5 記録は可能か。」展
会 期：2012年12月11日（火）～2013年1月27日（日）
会 場：東京都写真美術館 地下1階展示室

Spelling
Dystopia

記録は可能か。展

【開催概要】

展覧会名：「映像をめぐる冒険 vol.5 記録は可能か。」展
会 期：2012年12月11日（火）～2013年1月27日（日）
会 場：東京都写真美術館 地下1階展示室
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内
ホームページ：www.syabi.com 電話：03(3280)0099
主 催：東京都 東京都写真美術館／産経新聞社
協 賛：凸版印刷株式会社
協 力：NECディスプレイソリューションズ株式会社／ゲーテ・インスティトゥート・ヴィラ鴨川／早大演博
演劇映像学連携研究拠点平成24年度公募研究「「映画以後」の幻灯史に関する基礎的研究」／神戸映
画資料館／映画美学校／調布市立図書館
後 援：ドイツ文化センター／サンケイスポーツ／夕刊フジ／フジサンケイビジネスアイ／iza!／SANKEI
EXPRESS

開館時間： 10:00～18:00（木・金は20:00まで） 入館は閉館の30分前まで
2013年1月2日・3日は11:00～18:00
休 館 日： 毎週月曜日（12月24日、1月14日は開館、翌日休館）、年末年始（12月29日～2013年1月1日）
観 覧 料： 一般 500(400)円／学生 400(320)円／中高生・65歳以上 250(200)円
※（ ）は20名以上団体料金 ※小学生以下および障害者手帳をお持ちの方とその
介護者は無料 ※東京都写真美術館友の会会員は無料 ※第3水曜日は65歳以上無料
交通機関： JR 恵比寿駅東口より徒歩約7分／東京メトロ日比谷線恵比寿駅より徒歩約10分
※当館には専用の駐車場がございません。お車でご来館の際は近隣の有料駐車場をご利用ください。

【展示構成】

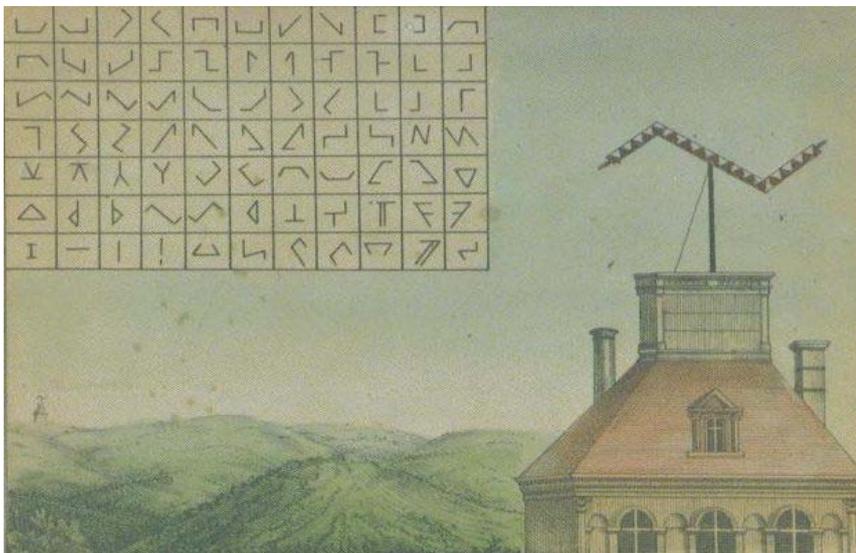
本展は、当館の収蔵作品を中心に、写真、インスタレーション、映像装置、資料など約60点を展示予定です。
「通信－メッセージ」「抗議と対話－アヴァンギャルドとドキュメンタリー」「記憶－アーカイヴ」という
キーワードから、映像と社会の関係を考察します。とりわけ1960年代の日本において、美術、映画、政治を
考察する上で重要な役割を果たした、金坂健二の本邦初公開の写真・映像作品を平成23年度新規収蔵作品から
ご紹介します。



右図版+左図版：金坂健二 《無題》1960-69年／東京都写真美術館蔵

「通信—メッセージ」

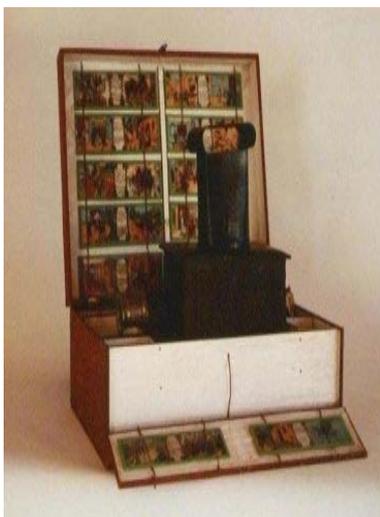
「メディアはメッセージである」というマーシャル・マクルーハンの有名な言葉には、メディアの技術形式そのものが、メッセージに影響を与える、つまりはメッセージそのものであるという意味がありました。ここでは狭義の映像史を「通信」という観点から考察し、技術環境と映像のメッセージが関わる接点に着目します。とりわけ、美術館のコレクションである幻灯機を出発点として、社会運動と結びついた、日本における幻灯機を受容と流通を、早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点における幻灯に関するプロジェクトの協力のもと、紹介していきます。



作者不詳 《腕木通信機》 1840年／東京都写真美術館 蔵



幻灯機スライド式種板



幻灯機 (Magic Lantern)



幻灯機スライド式種板

「抗議と対話—アヴァンギャルドとドキュメンタリー」

金坂健二は、「アングラ」の語源ともなるアメリカの「アンダーグラウンド・シネマ」の紹介者であり、写真家、映像作家、批評家、そして活動家として1960年代から70～80年代にかけて、日本の写真・映像文化において特異な役割を果たしました。ここでは美術と政治が交差する1960～70年代の日本に焦点をあて、金坂健二を軸に、同時代の記録映画監督・小川紳介、金坂とともに当時のアヴァンギャルドを牽引した宮井陸郎ら、さまざまな同時代の作品群から検証していきます。



金坂健二 《アメリカ・アメリカ・アメリカ》より 1966年/16ミリフィルム/東京都写真美術館 蔵

「記憶—アーカイヴ」

当然のことながら、映像は、現在すべてを記録することはできません。しかし、少なくとも、映像は、私たちに現実を想起させる記憶メディアたることはできるかもしれません。今日における、映像と記憶の関係を、実際に現在進行形で行われているアーカイヴのプロジェクトや過去の場所や空間を題材にさまざまなメディアを通してその歴史を探求するアーティスト、ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニの作品表現を通して考察します。



左図版：ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ《スプリング・ディストピア/サヨナラ・ハシマ》2008-09年/作家蔵
右図版：ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ《成田フィールドトリップ》2010年/作家蔵

【参加作家プロフィール】

金坂健二

1934年東京生まれ、1999年死去。写真家/映像作家/評論家。慶応大学文学部英文学科卒業後、映画評論家として活動する一方で前衛映画の制作を行い、60年代から70年代にかけて渡米し、アンディ・ウォーホルやアレン・ギンズバーグなど当時のカルチャー・シーンの中心人物とも親交を持ちながら、アンダーグラウンド映画を日本に初めて紹介。ストリートの深部に入り込み自らも写真家として多くの作品を発表した。主な映像作品に「アメリカ・アメリカ」「ホップスコッチ」「燃えやすい耳」がある。

小川紳介

1936年東京生まれ、1992年死去。映画監督。60年岩波映画製作所に入社。64年フリーとなり、66年小川プロダクションを設立、学園紛争や三里塚闘争などの記録映画をとる。山形県上山(かみのやま)市にうつり、農村を対象としたドキュメンタリー映画をとりつづけた。代表作に「三里塚・第二砦(とりで)の人々」「ニッポン国古屋敷村」など。

宮井陸郎

1940年生まれ。映像作家。1960年代に、「映像芸術の会」に参加するとともに、「ユニットプロ」を主宰、拡張映画、環境映画としての映像作品を数々発表し、アンダーグラウンドシーンを牽引する。またアンディ・ウォーホル展の企画などプロデューサーとしても活躍。1970年代半ば以降はインドにわたり、宗教研究に携わる。

ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ

ニナ・フィッシャー（1965年ドイツ、エムデン生まれ）とマロアン・エル・ザニ（1966年ドイツ、ドゥイスブルク生まれ）、ベルリン在住。90年代前半より、廃墟や忘れ去られた場所や空間を題材に、その社会・歴史的な意味を探求していくプロジェクトを映画、写真、インスタレーションなど様々なメディアを通して展開している。日本では「オーラ・リサーチ」展（東京都写真美術館、1998年）を始め、グループ展、映画撮影や上映など多数。

【関連イベント】

■連続トークイベント

出品作家、ゲストによる連続トーク企画、作品の解説を行います。

2012年12月11日(火) 18時～19時30分

ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・ザニ(出品作家)

2012年12月22日(土) 15時～16時30分

ゼロ次元・加藤好弘（美術家）、黒ダライ児(戦後日本前衛美術史研究家)

2013年 1月19日(土) 15時～16時30分

宮井陸郎（出品作家）、平沢剛（映画研究者）

会場：東京都写真美術館 1階アトリ工

定員：各回70名

受付：当日10時より当館1階受付にて整理番号付き入場券を配布いたします。

※整理券番号順、自由席。開場は開演の30分前より

※本展チケットをお持ちの方はどなたでもご参加いただけます。入場無料

■学芸員によるフロア・レクチャー

展覧会の見どころを担当学芸員が解説いたします。

第2・4金曜日および2013年1月2日・3日の14時00分より 展示室内にて

※本展覧会の半券(当日有効)をお持ちの上、地下1階展示室入口にお集まりください。

【展覧会カタログのご案内】

本展の開催にあわせて、全出品作品と関係者のテキストを掲載したカタログを発行します。

『映像をめぐる冒険 vol.5 記録は可能か。Spelling Dystopia』

発行：東京都写真美術館 価格未定

1階ミュージアムショップ ナディッフ バイテン（03-3280-3279）にて発売します。

* やむを得ぬ事情により、関連事業を予告なく変更することがございます。
その他の関連企画・最新情報につきましては美術館ホームページをご確認ください。

【問い合わせ先】

東京都写真美術館 事業企画課

〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内

Tel. 03-3280-0034 / Fax. 03-3280-0033

展覧会担当	田坂 博子	h.tasaka@syabi.com
	石田 哲朗	t.ishida@syabi.com
	山峰 潤也	j.yamamine@syabi.com
広報担当	久代 明子	a.kushiro@syabi.com
	平澤 綾乃	a.hirasawa@syabi.com
	前原 貴子	t.maehara@syabi.com